

デマンド交通の種類例

デマンド交通とは需要(デマンド)が発生した際に運行するタイプの交通手段である。利用者は電話などで運行を依頼する必要がある。ルートや時刻表、停留所などの有無によってさまざまな形態が存在する。利用者の特徴や利用形態、かけられる経費の上限などさまざまな条件整理をし最適な形態をよく検討する必要がある。なお、通常「デマンド交通」と言った場合には乗合い交通手段を指すことが一般的だが、通常のタクシーを電話で呼んで利用するのも広義のデマンド交通と考えられる。

	ルート	ダイヤ	利用形態	乗車地	降車地	運賃(大人一回乗車)	特徴・事例	メリット	デメリット
↑ 自由度高い	無し	非固定	個人	フリー	フリー	通常のタクシー運賃のほかに迎車料金や予約料金が必要	「通常のタクシーを電話で呼んで利用する」とこと同義。利用登録等は不要。	24時間365日必要なときに利用できる。区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。	乗合い交通手段に比べて運賃が高い。地域にタクシー会社が無い場合は利用不可。
	無し	非固定	乗合い可能	フリー	フリー	300円～700円程度	乗合いは可能だが、実際に乗合いになるケースはあまりない。例:北本市デマンド。	停留所を設けないため、自宅から目的地まで乗ったまま移動できる。自由度が高い一方で運賃はタクシーよりは安い。区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。	便利にしすぎると通常のタクシーを圧迫したり運行経費が増加しがちである。場合によっては通常のタクシーが廃業して一般の人が通常のタクシーを利用できなくなることも。「行政の補助に頼った運賃の安いタクシー」という批判もある。
	無し (起終点あり)	固定	乗合い可能	フリー	フリー	300円～700円程度	運行条件に一定のしほりがあるため、タクシーとの競合が避けられる。	停留所を設けないため、自宅から目的地まで乗ったまま移動できる。自由度が高い一方で運賃はタクシーよりも割安。区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。	多くても一時間に一本程度の運行であるため、急な予定には対応できない。
	無し (起終点あり)	固定	乗合い可能	フリー	停留所あり (目的地限定)	300円程度	運行条件に一定のしほりがあるため、タクシーとの競合が避けられる。例:武蔵村山市むらタク(往路)	区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。運行する時刻が決まっているので一日の運行本数が限定され経費に一定の制限をかけられる。	自宅前から乗車できるが目的地が限定される。多くても一時間に一本程度の運行であるため、急な予定には対応できない。
	無し (起終点あり)	固定	乗合い可能	停留所あり (乗車地限定)	フリー	300円程度	運行条件に一定のしほりがあるため、タクシーとの競合が避けられる。例:武蔵村山市むらタク(復路)	区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。運行する時刻が決まっているので一日の運行本数が限定され経費に一定の制限をかけられる。	利用する際に停留所まで出て行く必要がある。多くても一時間に一本程度の運行であるため、急な予定には対応できない。
	無し (起終点あり)	固定	乗合い可能	停留所あり	停留所あり	300円程度	ルートは決まっていないが、停留所を設けることもあり路線バスのイメージに近い。運行条件に一定のしほりがあるため、タクシーとの競合が避けられる。例:藤沢市善行地区	区域免許なので、通行できる道路が限定されにくい。乗車地、降車地ともに停留所を設定し利用を集約することから乗合いの可能性が高まる。運行の効率が高まる。	停留所まで出て行く必要がある。目的地についても停留所から歩く必要がある。多くても一時間に一本程度の運行であるため、急な予定には対応できない。
	↓ 自由度低い	固定 (定路線型)	固定	乗合い前提	停留所あり	停留所あり	バス運賃に準じる	需要があるときのみ運行する路線バス。いわゆる路線不定期運行にしたり、特定のバス停からの需要があるときには、そのバス停を含む迂回ルートを実行するようなケースもあり。	需要があるときのみ運行するので乗客ゼロで運行することが避けられる。走った分だけの経費負担が可能なら経費削減が期待できる。